

# 爪紅の黎明の風

(大正十五年開学五十周年記念哀歌)

井上哲郎君 作歌  
河口忠雄君 作曲

## 一

爪紅の黎明の風  
白羽簾へる若武者が  
青春うち慕ふ風情あり  
赤き血潮の溢れては  
北溟の城花も散る  
香ふ二十を愛しむ哉

## 二

いとうら若き鰯を  
逆巻く潮に浮べつつ  
宿命の羈絆解きうてば  
無量無限の陽光に  
真白き鳥のゆく如く  
北海の奥の流離よ

## 三

ああ黒潮や、さざれ床  
いるかの夢に身をひそめ  
郷愁空に盃もなく  
熱ある友を求めては  
溢るる涙袖うちて  
吾等が寮歌を含むなり

## 四

淡紅の花陰に  
裸形の友も集ひして  
生くる力の征矢ひけば  
牧羊神も醒めつらむ  
孤雲の彼方はるけくも  
胸うちふるふ希望あり

## 五

されど悲恋の  
されど悲恋の  
浩蕩雲にむせびけむ  
断腸を撞かむ巨鐘の  
鐘樓の夢やいかなれば  
嘆かひ濡るる月魄に  
秘めにし曲をつたへずや

## 六

嗟呼青雲を吟じなば  
月毛の駒に星止めむ  
秋水義に反きては  
破波の想堪へがたく  
酒盃にむせぶ白雲の  
乱るる醉歌に恨みあり

## 七

大熊星のさすほとり  
快樂の濁舟ひくく見て  
舞ひつ歌ひつ白羊の  
あこがれ楡の駅路に  
自由の泉青春を  
うち連れ汲まん誇り哉